

会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会（専門部会）

2 開催日時

令和 6 年 4 月 26 日（金） 午後 5 時 00 分から午後 6 時 15 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 201 会議室

4 出席した者の氏名

（1）委員

（専門部会委員）羽賀祥二、河西秀哉、佐々木重洋、岡本耕平、可児光生、笈真理子、中野裕子

（2）執行機関

中村教育部長、（歴史まちづくり課）加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、鈴木、河崎、河合

5 議題

（1）資料編の構成・内容について

（2）今後のスケジュールについて

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

1. 開会（羽賀部会長挨拶）

2. 議題

（1）資料編の構成・内容について

事務局：調査執筆委員を名古屋経済大学特任教授・地域連携センター長の岡田和明氏に委嘱した。

主に原稿の内容確認に加わっていただく。

【頁数の調整】

事務局：4 月 23 日時点で原稿の合計が 1,405 頁となっている。前回の専門部会後に調整してもらった修正版原稿を踏まえているが、1,000 頁の設計に対してまだ大きく超過している。内訳では歴史班、観光・文化班の超過分が多くなっている。

部会長：私の担当分で 40 頁ほど削ったが、それは未反映である。歴史班では第 I 部第 2 章、第 3 章第 5 節が大きく超過している。どのくらい可能か分からないが、もともとの割り当て、

全体のバランスを考えると 100～120 頁の思い切った削減をお願いするしかないと思っている。提出が遅れていた第 I 部第 6 章も大きく膨らんでいる。半減（-60 頁）くらいはしてもらわないといけない。また、地理班担当の第 I 部第 8 章もやや多いか。第 II 部では第 2 章の削減が必要なので、調整して何とか半減（-60 頁）させてほしい。カットした資料は通史編で生かしてもらおう。

事務局：指摘箇所の削減がうまくいけば $1,405 - (40 + 100 + 60 + 60) = 1,145$ 頁となる。

部会長：それでも超過しているが、各班・各委員、もしくは個別に調整をお願いしてとにかく圧縮するしかない。皆さんご自身は「これ以上は削れない」という限界点だろうか。

委員：今日こうして数値が出てきたので、自身の担当分であと 10～15 頁は減らす。

委員：自身の担当分は節の統合でかなり削減した。第 I 部第 8 章は複数人で原稿を分担しており、未調整の節とアンバランスになってしまった。

部会長：既に専門部会委員から依頼したが回答や修正版原稿が遅れているという場合は、私と事務局から再度お願いする。最終的に 1 割程度のオーバーであればそのまま入稿し、ゲラを見ながら調整する手も考えられる。今後入札で印刷製本業者が決まるそうなので、事前に「少し多めに入稿して最終的に 1,000 頁に収める」旨を相談しておけばよいのではないか。①入稿前に極力減らす、②入稿後にゲラを見ながら削減する、という二段構えでいきたい。

事務局：それは可能だと思う。

委員：民俗班でも一部未提出原稿がありそう。早急に確認するが、割り当て頁数の 100%は超えないようにする。

【口絵・付録 DVD】

部会長：「口絵」8 頁分に入れる写真が決まっていない。候補の写真があれば 5 月中に知らせてほしい。広報の表紙に、時代を象徴する写真が載っている時期があるので、そこから何点かピックアップするのもいいと思う。

事務局：付録 DVD に何を収録するかは、原稿の調整について全体の内容が定まってからの検討課題とさせていただく。次回の専門部会以降に改めて要望を調査する予定。

委員：本冊に載せきれなかった資料、映像資料等、各自治体史で特色がある。

部会長：本冊と付録 DVD で資料を分担すると、読者にはわかりにくい。

委員：DVD での文字データは見づらいし、分担の意図も分かりづらい。ビジュアル資料に特化した方がよいと思う。

委員：要望を出せと言われても難しい。事務局案を出してもらえないだろうか。

事務局：要望を集約したうえで、たたき台となる案を出すものとする。

【資料のまとめ方】

委員：再確認させてほしい。①節の解説文を 1 頁に収めるとのことだったが、ぴったりではなく数行足りないままでもよいか。②資料タイトルを「○○が～を…する」の形に統一し切れていないところがある。入稿前に修正すべきか。③出来事年月日はどこまで正確なものを求めるか。④資料の削減で資料番号が変わってきたが細かく修正すべきか。

部会長：①節の解説文は節タイトル等を含めて 1 頁以内と文字数が決まっている。数行空いても

そのまま改頁するので構わない。資料確定後、後日の提出でもよい。資料そのものの解題ではないので、必ずしも全ての資料番号を引用しなくてよいものとする。節・項を設定した意図等が伝わればよい。

②資料タイトルは、資料の性質によっては統一が難しいだろう。現状では体言止めになっていても構わない。私と事務局で原稿確認する際に、読みやすさを考えて調整したい。

③出来事年月日は資料から読み取れる範囲で構わない。読み合わせ、校正段階でも原資料と突き合わせてチェックする。

④資料番号はどの範囲で通番とするか。通史編で典拠を示すとなると、全体で通番とするのがよいのでは。後の編集作業で付け直すので原稿では仮番号でよい。

委員：通史編は縦組みである。資料編の資料番号を示す際、4桁の数字を縦組みにはできないのではないか。

事務局：現状、総資料数が1,000点以上ある。第Ⅰ部、第Ⅱ部で分ければ超えないか。

部会長：では部ごとの通番でよいか。この番号は細目次にも載ることになる。

委員：以前（令和5年度第2回専門部会）、目次・索引とは別に、年代・出来事と資料が紐づけできる年表、年代別資料一覧の話が出たと思うが、収録しないことになったか。

部会長：やはり通史編を作らないと年表はできないと思う。通史編には、資料編の資料、通史編の叙述を基にした年表を載せる予定。資料編の頁数では難しいので、細目次で確認してもらおうということでしょうか。

委員：資料編だけ読んでも大勢がわかればと思ったが、通史編に載せるのならそれでもよい。資料一覧にするとものすごい頁数になってしまう。

委員：資料の配列について確認したい。自身の担当分は経年に従って資料を並べたが、そうでない節もあるようだ。出来事が年代順になっていないと読みにくいのでは。

部会長：項ごとに経年で並んでいけば問題ないのではないか。年代に引っぱられると項を立てた意味がなくなってしまう。

（2）今後のスケジュールについて

事務局：部会長と協議の結果、

5月7日（火） 修正版原稿の最終締切

（事務局による取りまとめ）

5月13日（月）～17日（金）

部会長・事務局による原稿読み合わせ、調整箇所の確認等

（各委員への伝達・調整）

5月24日（金） 第2回専門部会、入稿前の最終確認

5月27日（月）～31日（金） 入稿準備

6月～順次入稿

というスケジュールを設定させていただいた。

部会長：あくまでも想定であり、いろいろなご意見があると思う。この連休で各委員にできるだけ削減をお願いすることになる。印刷製本業者が決まれば入稿後の手順も決まってくる。6月いっぱいかけ、数回に分けて入稿する形が取れるように折衝したい。あと2か月ほどしかなく、相当厳しいスケジュールではあるが、令和7年3月刊行という下限が決まってい

るのでご協力をお願いしたい。委員には不本意な形で原稿の削減をお願いすることもあり得るが、個別には私と事務局で対応する。専門部会委員の皆さんにはサポートをお願いしたい。

部会長：今後、私と事務局で原稿の読み合わせをする。冒頭で紹介のあった岡田氏にも、元副市長の経歴を生かした原稿確認をお願いする。検閲ではなく行政の専門家としての立場から、利害関係者の面で問題点がないか目配りしてもらおう。

原稿を整えていく過程で大きな修正点があれば各委員に個別に連絡し、編集作業を進める。原稿に対して出てきた意見と、こういう対応をした／すべきだという内容は全員に公開して解決していく。ご理解いただきたい。各委員の方が不快に思われるようなメールが行くかもしれないが、専門部会委員の方には間に入って力添えいただきたい。

事務局：原資料、元データが不足している場合も個別に連絡する。

事務局：今年度も引き続き、編さん支援業務を（株）ぎょうせい東海支社に委託する。著作権処理を依頼するにも、掲載する新聞記事を固めないで次の段階に進めない。早めに精査をお願いしたい。また、民俗班から作成希望があった民俗分布図のように、図表・グラフ類の作成も依頼する。観光・文化班でグラフ作成の要望があると把握しているが、5月中には取りまとめたい。元データや仕上がりイメージを早めに提出してほしい。

3. その他

- ・ 次回の専門部会は以下のとおり。詳細は改めて連絡する。

（専門部会委員のみ）令和6年5月24日（金）午後5時30分～7時00分
犬山市役所2階201会議室